

【研修構想】

<平成23年度学校教育目標>

誇りと自覚を持ち、新たな校風を築いていく生徒
～新校舎に生命を吹き込もう～

- <重点目標> (1) 1年間を見通した生徒会活動、専門委員会活動を実践しよう
(2) 学習基盤を確立しよう
(3) 生活環境を整備しよう
(4) 自己肯定感、自己有用感を高めよう

<生徒に身につけさせたい力>

- ・課題解決のために積極的に学び、自分の考えを追究しようとする姿勢
- ・問題意識を持って聴き、自分の考えを他者に分かるように伝える力
- ・家庭学習の質・量を充実させ、主体的に、計画的に学習する力

《平成23年度研修テーマ》

かかわり合いの中に学ぶ喜びがある「分かる授業」をめざして
～知識・技能を活用し、考える・聴く・伝える～

《仮説》

- 1) 教師が課題提示の工夫をし、生徒が問題解決意識を持って生徒同士や教師、教材（ひと・もの・こと）と適切にかかわり合えば、主体的に考える・聴く・伝える意欲が高まり、考えを交流する楽しさや、分かる・できる・認められる嬉しさを実感することができるだろう。
- 2) 知識・技能の習得とそれらを活用する学習を充実させることによって、生徒の学びがその時間の課題解決に終わるものではなく、新たな学習や生活の場で活用できる確かな学びに結びついていくだろう。

《手立て》

- 1) 生徒が主体的に学ぶ「分かる授業」づくり
 - ア 生徒の学習意欲を引き出す動機付けの工夫
 - イ 主体的な「ひと・もの・こと」とのかかわり合いの視点
 - ① かかわり合いの目的をはっきりさせる。（何のために）
 - ② 目的に合ったかかわり合いの形態を設定する。（個、ペア、グループ人数、隊形）
 - ③ かかわり合いの中でのめざす姿や教師の役割・支援を明確にする。
 - ④ 個の思考の流れや根拠がどの子どもにも共有しやすくなるような工夫。（図や表、具体物）
 - ⑤ 相手を意識した話し方（根拠を示す）や話し合いの進め方の指導
 - ウ 生徒の表れを見取り、よさや伸びを認める評価や個に応じた指導の工夫
- 2) 既習事項を活用して学ぶ「分かる授業」づくり
 - ア 活用できるノートづくりの指導、板書の工夫
 - イ 既習事項を活用させる場や、既習事項への立ち返りの場の設定
 - ウ 各教科における「活用のある授業」の学習活動例の検討・実践

各教科部（研修部）	学習部	特別活動部	生徒指導部
◎授業改善の推進 ・授業公開、指導案の検討、事後研修による教科の指導力向上	◎学習基盤の確立 ・「学習のめあて」の徹底 ・家庭学習の定着と充実 ・評価計画（学習内容表）の作成と提示 ・朝学習、教え合い学習による基礎の定着	◎生徒が主体的に活動するための話し合い活動の推進 ・縦割り活動を中心とした他者とのかかわり合いの場の設定と その中での自己肯定感・有用感の育成	◎生徒同士がのびのびとかかわり合いが持てる受容的な集団づくり ・個のよさを認め、個に応じた指導のための見届け